

Book Review

成人矯正に必須の歯周治療 適切な矯正治療を行うために

下野正基・大坪邦彦 編著



Reviewer

西井 康 Yasushi Nishii
(東京歯科大学 歯科矯正学講座)

A4 判変, 156 頁
カラー
定価 (本体 10,000 円+税)
医歯薬出版刊



近年、矯正患者の傾向として若年者だけでなく、成人の矯正需要が急激に増加している。しかしながら、成人の口腔内にはいくつかの問題があり、そのなかで最も頻繁に見られるのが歯周炎である。本書は歯周炎を生じている不正咬合者の矯正治療を学際的に多角的に捉えた良書である。著者もバラエティーに富んでおり、大学教授、名誉教授、そして第一線の矯正、歯周病を専門とする臨床医、また歯科衛生士がそれぞれの視点からわかりやすく解説されている。また、全編にわたり綺麗なイラスト、写真で構成されており、読者の理解の大いなる助けとなっている。

構成は基礎編、臨床編そしてケア編に分かれており、多分に臨床への利用を意識した構成になっている。基礎編では、最初に組織的な解説がなされているが教科書的な通り一辺倒の解説ではなく、各組織の機能を中心とし、歯

周炎の状態の歯肉を病的な見地からも解説されている。

歯の移動と歯周組織では、歯の移動における歯周組織の病変的变化がわかりやすく解説されており、特に臨床上当たり前に感じている歯の萌出についてのメカニズムでは、あらためて歯根膜の不思議さと重要性が認識される。病理学者らしく強い矯正力を与えたとき、歯根膜には壊死が生じると明言されており、力の大きさの生体に及ぼす影響を改めて考えさせられる。

Ni-Ti ワイヤーの特性についての解説のパートも大変興味深く、荷重たわみ曲線のなかでどの部分が臨床的に重要であるのかが、実際のワイヤー装着時の写真と対比できるように説明されており、大変理解しやすい構成である。長年 Ni-Ti の研究をされている著者らしい親切的な解説が展開されている。

臨床編では、一流の臨床医による、歯周、矯正、インプラント、口腔外科

のインターディシプリナリーアプローチがそれぞれの視点から解説されている。共通するところは、歯周治療の一連の治療計画のなかに矯正治療が組み込まれるべきであり、まずは炎症のコントロールが矯正治療の開始の必要条件であることが再認識できる。また、大変綺麗に処置された歯周治療と見やすい写真、わかりやすいイラストにより、炎症のコントロールをどのように行っていけば良いのかが、目の前に展開されている。

最後にケア編では、歯科衛生士業務を意識した章であり、矯正治療中の具体的なプラークコントロールが、ブラシの選択、ブラッシングの仕方等、大変細かに説明されている。

本書は、基礎から具体的な治療、メインテナンスまで包括的にかつ臨床応用ができるようわかりやすい構成となっており、歯周矯正を行う一般歯科医、矯正医の座右の書となるであろう。